1995 年 8 月 10 日第 3 種郵便物認可（毎週 1 回水曜日発行）
2024 年 1 月 29 日　増刊通巻 8929 号

SSKS

せんかわだより

～あるがままに　あたりまえに～

2024．2月号
No．559

☆　おひさま号が新しくなりました　☆

助成（公財）中央競馬馬主社会福祉財団
（一社）東京馬主協会

千川おひさま幼児教室では、『東京馬主協会』様の助成を受けて新しい送迎車を購入させていただき、それに併せて車内に安全装置を設置しました（昨今の送迎車内置き去り事件を受けて設置が義務化）。安全装置は東京都の助成があります。このような助成は事業所にとってとても助かります。感謝です。

開所後の２０１１年からずっと使用していた送迎車は大きな事故もなく、雨の日も晴れの日も、暑い夏の日も、寒い雪の日も走ってくれました。その走行距離は１０万㎞を超えました。本当にありがとう！

これからも安全・安心を第一に、新しいおひさま号は今日も走ります！

社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
http://www.musashino-senkawa.com

1995 年 8 月 10 日第 3 種郵便物認可（毎週 1 回水曜日発行）
2024 年 1 月 29 日　増刊通巻 8929 号

楽しく、自由な暮らしを実現するために

～今年度のとりくみと次年度に向けて～

自分でできる喜びを

地域生活支援部では、６カ所のグループホームと２カ所のショートステイ事業所の運営を一体的に行なっています。職員は横断的に勤務することで、各ホームで積み上げてきた環境整備や利用者対応のノウハウを他のホームでも生かしていくことができるようになってきました。また、複数の職員の視点が取り入れられることで、利用者の変化に気づくだけではなく、「この利用者はこれもできるのでは？」と、新たな日課にとりくむための意見も出てきています。

これまでの職員体制を大きく見直し、今年度から地域生活支援部職員体制を整えたことにより、これまで学習会で学んできたことを実行できるようになったことが、これらの成果につながっていると感じています。

職員は日課を通して利用者とかかわる中で、“できることは自分でする”“できることを増やしていく”という方針のもと、利用者一人ひとりの力を伸ばすとりくみを行なっています。それは、“誰かに何かをしてもらう”のではなく、“自分でできる喜び”を得た利用者の姿から学び、利用者の持つ可能性を最大限引き出すことにより、より楽しく、自由な生活を送ってもらいたいという職員の願いが大きな柱となっているのです。

支援の度合いに応じた支援方法

【鏡を見ながらできるようになりました】

地域生活支援部では年８回の学習会を行なっています。学習会において生活支援とは何かを学び、学習会での学びを利用者支援に生かし、利用者支援の中での気づきをまた学習会で整理し次の支援へとつなげていく。その循環の中で、職員の力量が向上し、利用者のQOL の向上につなげていくことをめざしています。また、グループホーム内での支援にとどまらず、支援を受けながらの一人暮らしなど、グループホームから次のステップへの移行についても学びを進めているところです。

地域生活支援部ではかねてより、６ホーム４２名の利用者について、支援の度合いによって、「安定生活型」「能力向上型」「自立移行型」の大きく分けて３つの類型としてとらえ、それぞれの類型に応じた支援方法を整理するとりくみを進めてきました。それは、利用者一人ひとりに対してそれぞれの職員が自分の視点でバラバラにかかわるのではなく、共通した理解のもとで同じ水準で支援するために、支援の方向性を整理することが必要だと考えたからです。また、利用者の力を伸ばしていくために、生活支援においても就労支援で培ってきた「機能分化」の考え方を参考に、段階的に支援していくことが必要だと考えて類型化にとりくんでいます。類型化を進めるにあたっては、類型ごとに「めざす利用者像」を作ることが必要と考え、学習と議論を続けています。しかし、利用者像を考えるときに、頭の中で考えていただけでは現実の利用者の姿から離れていってしまう恐れがあります。そこで、今年度の学習会ではそれぞれの類型の中から数名の利用者について事例研究を行い、利用者と向き合う中から「めざす利用者像」を考えていこうと、と

りくんでいます。今回は事例研究のとりくみの一端をご紹介させていただきます。

「できました」その顔が見たかった！

【自信が次の意欲へとつながります】

チャレンジャーに通所するＡさん（２７歳・男性）は、天の甍寮に入居して５年目になります。基本的な日課はほぼ一人で行なうことができます。人と接することが好きで、どの職員の支援やアドバイスも柔軟に受け入れることができる、朗らかな笑顔が印象的な方です。そんなＡさんについて、職員全員の認識として「能力向上型」の支援が必要な方と捉え、事例研究を行っています。

Ａさんの主な支援目標は「さまざまな経験から自信を深め、将来的に一人暮らしを希望できるようになる」です。この目標を達成するために、Ａさんにどのようなことにとりくんでいただくか考えました。Ａさんの“できていること”“支援が必要なこと”を整理したときに、苦手なこととして金銭管理があげられました。小銭を使うことができずに 2000 円ほどの小銭が財布の中に溜まっていることもしばしば。ご家族が毎週両替をして、お札を準備してくださっていました。そこで、Ａさんの日課として翌日のお弁当代を小銭で準備することをはじめました。お弁当の値段を確認して、小分け袋に小銭で準備をする・・・最初は職員の働きかけがなければやらなかったＡさんですが、くり返しとりくむことで、自分から準備しようという積極的な気持ちが表れるようになってきています。自宅でも両替の練習をしているようで、ご家族に褒められたＡさんはますます意欲的にとりくむようになっています。一番身近な存在である家族に褒められることがＡさんの大きな原動力となっているようでした。今まで家族や職員がやってくれていたことが自分にもできた、できるようになったという経験から得た自信は、次の意欲へとつながります。今は、一人で通院するという新たなとりくみに挑戦中です。「できました」「次もがんばります」と職員に報告してくれるときの充足感たっぷりの表情を見ると、「Ａさんのこの顔をたくさん見ることができるよう、これからも一緒にいろいろなことにチャレンジしていこう」と職員は思うのです。

選ばれるグループホームであるために

今回の事例からは「意欲をもってとりくむ」「積極的にとりくむ」といった姿が、能力向上型の「めざす利用者像」としてキーワードになってくるのではないかと考えています。今後も事例研究を積み重ね、利用者と向き合う中から利用者像をまとめあげていきたいです。

【毎日楽しく活き活きと】

そして、武蔵野千川福祉会の“できることは自分でする”“できることを増やしていく”という大きな特徴を基礎として、これまでもこれからも、職員一丸となって利用者支援に精進します。そして、利用者が毎日楽しく活き活きと暮らし、自由な暮らしを実現できるような、選ばれるグループホームをめざしていきます。

（文責：峰岸 丈、川名 春香）

1995 年 8 月 10 日第 3 種郵便物認可（毎週 1 回水曜日発行）
2024 年 1 月 24 日　増刊通巻 8929 号

令和６年能登半島地震被害を受けられた方々へ

お見舞い申し上げます

このたび能登地方を震源とする大規模地震により犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

被災地域ではまだ余震が続いており、慣れない環境や避難生活において、障害のある方々やそのご家族の皆さまは、多くの困難に直面されているのではないでしょうか。被災地の様子を見聞きするにつれて、その被害の大きさと深刻さに胸が痛みます。

被災地域のみなさまの安全確保、そして一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

【とぴっくす】～インスタだより vol.8～ ＃新年会

旅行に引き続き、こちらも４年ぶり！
新年会が７事業所で開催されました。

フレンチ、ピザに和食御膳…。
それぞれがおいしい食事を囲んで
今年の抱負を一人ひとり発表しました。

神社に参拝し、健康や金運アップを祈願したり
ボウリング大会で大盛り上がりの事業所も！

結束を深めて、今年も良い年にしたいと思います。

【ひさしぶりのボウリング！！】

今月の動向 ～令和６年１月～

７日(日)賀詞交歓会
11 日(木)常任理事会
12 日(金)人事評価研修
17 日(水)児童発達支援学習会
　　放課後デイ学習会
18 日(木)Ｂ型事業所学習会
22 日(月)常任理事会
　　生活介護事業所学習会
25、26 日(木・金)せんかわアート展
30、31 日日(火・水)とびうめ福祉会様見学

来月の予定 ～令和６年２月～

６日(火)地域生活支援部学習会
８日(木)常任理事会
14 日(水)Ｂ型事業所学習会
19 日(月)上級職員研修
20 日(火)新任職員研修
21 日(水)児童発達支援学習会
　　放課後デイ学習会
　　生活介護事業所学習会

社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
http://www.musashino-senkawa.com

＜発行人＞　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　東京都世田谷区祖師谷3－1－17－102　TEL 03(6277)9611
＜編集人＞　社会福祉法人　武蔵野千川福祉会　東京都武蔵野市境南町４－20－5　TEL 0422(30)0022　定価 50 円